

平成29年4月12日

## 南会津町高清水ひめさゆり群生地の植物調査結果について

平成28年度に福島県南会津町から受託した「高清水自然公園ひめさゆり群生地・会津高原南郷スキー場ゲレンデ調査事業」により植物相及び植生調査を行ったところ、苧安（かりやす）の一種であるオオヒゲナガカリヤスモドキの草原であることが分かりました。かつて苧安の茅場は日本各地で見られましたが、現在はわずかしか残っていない大変貴重なものです。これらの点を考慮に入れて、ひめさゆり群生地の管理策を南会津町へ提言しましたので、ご報告いたします。

福島県南会津町の高清水自然公園ひめさゆり群生地は、ヒメサユリ *Lilium rubellum* Baker が自生し、開花期には約8,000人が訪れる観光地です。かつては茅場であり、茅場としての利用がされなくなった後もヒメサユリの保全のために火入れや草刈りが行われてきました。しかし、ヒメサユリへの影響が懸念されたこと等により、ここ数年は中断されていました（草刈りは2014年に小規模に再開されました）。近年、つる性の木本のクロヅルが繁茂してきたことや、観光客などから花が少ないと指摘されたことを受けて、その原因を調査し適切な管理策を探ることとなりました。そこで、平成28年度に福島大学が南会津町から「高清水自然公園ひめさゆり群生地・会津高原南郷スキー場ゲレンデ調査事業」を受託し、適切な管理策を提案するために植物相および植生の調査を行いました。

植物相調査の結果、高清水自然公園ひめさゆり群生地内に105種1変種の維管束植物の生育が確認されました。保護上重要な植物としてヒメサユリの他に、ヤマトキソウ、キキョウ、ヤナギタンポポが生育しており、希少な草地生植物の生育地として機能していました。また、クロヅルや先駆樹種の稚樹の旺盛な生育が確認されました。これは、草地から陽樹林への遷移が進行しつつある事を示していると考えられます。

植生調査の結果、優占していたのは、苧安（かりやす）の一種であるオオヒゲナガカリヤスモドキでした。苧安は中部地方の伝統的な茅葺屋根材として良く知られていますが、福島県南会津地域では、屋根材以外にも馬の飼料や踏み草、カラムシ畑の焼き草などに利用されていました。苧安の茅場は戦後に利用されなくなったことで放置され、そのほとんどが消失しました。文献やインターネット等で確認できた日本で現存する苧安の茅場は、石川県金沢市の「金沢湯涌茅場」など5ヶ所のみで、うち4ヶ所は文化庁の「ふるさと文化財の森」に指定されています。今回の調査により、高清水自然公園ひめさゆり群生地はヒメサユリの自生地であるばかりでなく、苧安の茅場としても全国的に貴重なものであることが明らかとなりました。

これらに基づき、以下の4点を行うことにより草地環境を維持し、自生としてのヒメサユリや全国的に貴重なオオヒゲナガカリヤスモドキ群落を保全してゆくべきであると南会津町へ提言いたしました。

- (1) 草地から陽樹林への遷移の進行を防止するために、火入れや草刈りを再開する。
- (2) 自生地であることから、ヒメサユリの数や密度を無理に増やすことは考えない。
- (3) ヒメサユリの自生地、苧安の茅場である点を活かした広報活動を行う。
- (4) 伝統的建造物の補修や、からむし焼きなどの伝統行事等、草刈りで刈り取った苧安の地元での活用をはかり、地域の観光や文化の振興につなげる。

【研究メンバー】

- ・薄井創太（福島大学大学院共生システム理工学研究科 博士課程前期1年）
- ・黒沢高秀（福島大学共生システム理工学類 教授）



高清水自然公園ひめさゆり群生地でのヒメサユリ（2013年6月23日猪瀬礼璃菜撮影）。





夏の高清水自然公園ひめさゆり群生地。苜蓿の仲間のオオヒゲナガカリヤスモドキが優占する群落が広がる（2016年8月11日）。



秋の高清水自然公園ひめさゆり群生地。一面にオオヒゲナガカリヤスモドキの穂が見られる。





高清水自然公園ひめさゆり群生地に生育する希少な草原生植物。

上：キキョウ。下：ヤナギタンポポ。いずれも 2016 年 8 月 10 日撮影。

(お問い合わせ先)

共生システム理工学類教授 黒沢高秀

電話：024-548-8201

メール：kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp